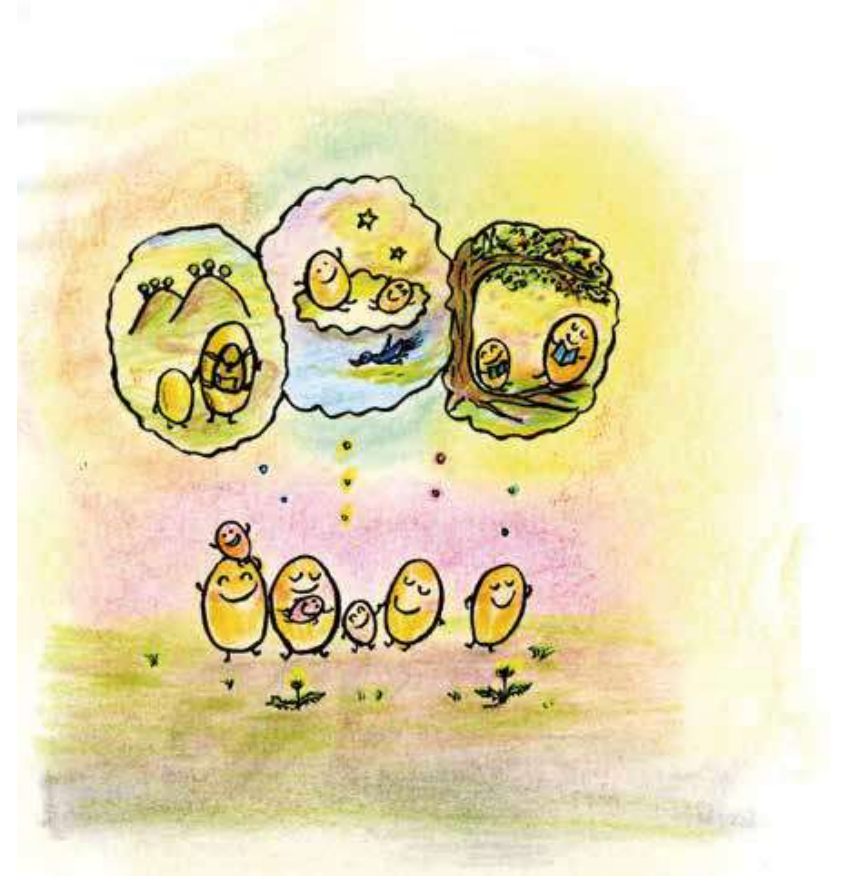


子育ての中で見つけた うれしいこと



公益社団法人 京都市私立幼稚園協会

発行にあたって

二〇二〇年、厳しいいきびしい状況の中でも、その自粛生活を通して、私たちは生き方、働き方、過ごし方……を省みたり、大切なことは何なのかを確かめる貴重な機会をもつことができたのではないのでしょうか。

親子で過ごす時間も長く、苦勞もありつつ、うれしい親子のやりとり、過ごし方……も見つけられたかもしれません。

素敵なエピソード
楽しかったシーン

失敗談…… 何でも問いません。

お寄せいただき、子育て世代の仲間とこれから子育てをする若い世代、お世話になっている人たち……と、分かちあたり励まし合ったりできればと思っています！

このような投げかけをさせていただいたところ、二〇〇編以上の作品が寄せられました。子の育ち、育ての場面には、苦悩も時には苦難もあるかもしれませんが、よろこびもいっぱいです。

お寄せいただいたひとつひとつは、どれも親子のやりとり、共に過ごす場面から生まれた、きらりと輝くかけがえのない表現です。

お互いの励まし、次の子育て世代へのエール、ゆたかな子育て環境を模索する社会への力づけに、この小さな作品集が少しでも結びついたら幸いです。

どうぞひとつひとつの作品をお楽しみ下さい。
令和二年十二月吉日

(公社) 京都市私立幼稚園協会

会長 升光 泰雄



子育ての中で見つけたうれしいこと

《エッセイ・三行詩・つぶやき》

4

子育ての中で見つけたうれしいこと

《川柳・俳句》

70

子育ての中で見つけたうれしいこと

《作品》

84

我が家の姉妹は小六と年中です。姉は反抗期
まったただ中……。

ついガミガミと注意していると妹がやって来
て、「なんでそんなこと言うの!!」と怒ります。
姉ではなく私(母)に……。

「ママはいつもにっこりとしてプリンセスで可愛
いのにおにさんだったら可愛くない!」と……。
ふと鏡を見ると眉間にシワを寄せたまさにおに
の形相の私が。

四歳児に教えられ、心洗われて改心する毎日で
す。(M・T)

コロナ禍ですっかり運動不足の私。テレビで楽
しく鍛える健康器具の魅力的なCMを無言で見
入っていると「自分で運動しないと意味がないよ

ね、ねーママ!」とスバリ正論を突く娘。参りま
した。(K・N)

五歳の娘が、寝る前にふと
「サンタさんも

今年はマスク

してるよね」

マスクをつけ、人にうつさない、うつらないと
いう思いやりのエチケットが、子供の中にもしっ
かり根づいているのだなと感心したのと同時に、
子供ならではの発想にほっこりとした瞬間でし
た。(M・F)

春の鴨川

自粛期間中、気分転換と軽い運動を兼ねて、子
供達と鴨川へ散歩。

もちろん子供達はまっすぐ歩かず、みちくさば
かり。

何度も振り返り子供達を確認する私。

ふと、川の方を見ると、カルガモの親子。

こちらも親ガモが、子ガモ達を必死に目配せ中。

お互い大変ねと、思わず笑みがこぼれる。

(A・N)

頼りになる息子

私はとても忘れ物が多い。年少の息子はすでに
それを知っているので、外出時には玄関で私に向
かって「鍵持った? 携帯持った? 帽子は?」と一

生懸命に聞いてくれる。「お母さんはいつも何
か忘れるんだよねー」と笑いながら。

言葉がなかなか出てこなかった息子がこんなに
話せるようになり、しかも私が忘れ物をしないよ
うに優しくフォローまでしてくれる。些細なこと
かもしれませんが、そんな成長に感動の毎日です。
(A・T)

三歳の七五三。

神社で神主様に祝詞をあげて頂いている最中。

隣で娘が小さな声で……。

「おかあさん……オナラした……」

私。

「そっか……今はもうしないでね」

そんな娘も、もうそろそろで七歳の七五三。

健やかに育っております、神様ありがとうござ
います。(M・M)

五歳の娘と入浴中。
娘が。

「いまから、モモがうかんできます」
ぷかり……。

浮かんできたのは娘の桃のようなお尻。

「わあ！モモケツが浮かんできたあ！」

私が言うとお喜ぶ娘。

もう少し立てばお年頃になり、そんなことも言わなくなってしまうのかと思うと少し寂しい今日この頃。
(M・M)

○図書館で息子に本を読んでいる時、少し離れた場所からこちらの様子を伺っている小さな女の子。

その姿に気がついた息子が、「いつしよにみる？」とそっと声をかける優しさに成長を感じました。



○買い物帰り、急な夕立に雨宿りをしている時、同じく傘を持っていない様子の親子が近づいてくると、「とつぜんのあめだからきをつけてねー」と声をかける息子。
くすつと笑ってしまう反面、知らない人にもそんな風に言葉をかけられる息子はすごいなあと感じました。

○普段は関西弁を話さない息子が、寝言で「なんでやねん」と言った時は、思わず大爆笑！どんな夢を見ていたのかな。

○「鬼滅の刃」「ひみつのあいば」と言う息子
(S・K)

大きな家族による路地企画

例年なら新年度を迎え慣れない生活を送ることになる四月。今年は長い春休みとなった。小学生になった長女と幼稚園に入園した次女と共に、見えないウィルスとどう向き合い、どう過ごすのか、本当に悩ましい日々だった。けれど最高に気持ちのいい春。子たちは外に出たくてうずうずしている様子。

我が家は奇跡的、両親もお向かいも斜め向かいも仲良しのお友達のお家。子たちは誰かの気配を感じると待ったなしで飛び出した。

まるで幼稚園の園庭や教室を行き来するように家と家の間を行ったり来たり、なんだか大きな家族のように見えてきた。大きな家族！そういう幼稚園ではクラスのみんなを「大きな家族だね」と表現する。

親子共々そんな心地のいい場所であることを再

確認した私たち。子たちが家の前の路地で安全に過ごすためのプロジェクトを発足しようと動き出した。名付けて「路地企画」。

路地を行き来して遊ぶ子たちにNOと言わなで済むよう、交通事故の危険性を伝え、子たち自身で道を横断するときのルールを決めてもらうことから始まり、最終的にはオリジナルの飛び出し坊やを作って設置する。

交通工事が専門の夫に加え、イラストレーターのお父さんに瓦職人のお父さん。せっかくだからと、仏教学を専門とするお父さんに地元の釈迦堂についてお話してもらい、ゆかりのあるお釈迦様やお地藏様の飛び出し坊やにしようということになった。

これまでだったらお父さんは外で仕事をしていたけれど、家に居るようになったおかげで日中の様子が目に入るようになり、やりましようやりましよう！と入ってきて、五人のお父さんと五人の

お母さんと七人の子たちみんなで盛り上がっている。二回のワークショップを無事に終え、もうすぐ飛び出し坊やの製作に。新しい年を迎える前に、活動報告ができたらいいなと楽しみにしている今日この頃です。

(M・S)

「新型コロナ こびとじゃないよ コービット」

自しゆく生活中のある日のことです。

四歳になったばかりの息子が「ママ、しんがたコロナウイルスはな、こびとのウイルスなんやろ」と、得意気に言ってきました。

始めは意味がわからなかったのですが、息子の話をきいていると、どうやら私がラジオをききながら、「新型コロナウイルスは2019-nCoV コービットナインティーンって呼ばれるんやなあ」とつぶやいていたのをきいていたようでコービット

が小人（こびと）ときこえたようです。とつてもかわいいききまちがえに、私の心は一気に癒されました。ありがとう。

(M・N)



自肅生活中、四歳の息子と私は毎日団地の周りを散歩することにしました。そこで三つの素敵な出会いがありました。

ひとつめは色づき始めたびわの実をみていると、おばあさんに声をかけられました。「団地の入り口ってどこだったかしら、わからなくなってしまうて」と困っておられました。部屋の前まで送りましたが今度は鍵をさしても開きません。ご家族は留守です。かばんの中を全て出して三人で探すと別の鍵が出てきて。無事に入ることができました。「ありがとう、また遊びに来てね」と言うてくれて、息子もうれしそうでした。

ふたつめは散歩から戻りエレベーターをおりると、おばあさんが座り込んでいました。声をかけると、こけてしまって立ち上がれなくなったとのこと、おうちまで送りました。一人ぐらしということ、心配して次の日訪れると、元気になっておられ安心しました。それから毎日エレベーターを

おりると、おばあさんが困っていないか確認することが息子の仕事となりました。

みつめは、またある日、違うおばあさんに声をかけられました。

「いいものがあるから、見に来てごらん。こっちこっち」キラキラ目を輝かせて連れて行ってくれと、赤くて小さな実がたくさんなっていました。へびいちごというそうです。「食べられる？」ときく息子に「おいしくないけど、かゆみ止めのお薬になったりするのよ」とおしえてくれました。「同じ団地だからまた遊びましょうね」とさよならしました。

ここに引っこしてきて四年になりますが、このような出来事が重なったことに驚いています。自肅生活のゆったりした時間がくれたプレゼントでしょうか。近くに気にかたり声をかけあえたりできる人がいることの大切さを息子と一緒に教えてもらうことができました。

(M・N)

つなぐ

まいにち つないでいた
ちいさな 手

あたたかく やわらかな
ちいさな 手

ひさしぶりに つないだ
ちいさな 手

ちよっとだけ 大きく
ちよっとだけ しっかりした
ちいさな 手

つないでいたい
ちいさな 手

「つなぐ」を作ったエピソード

自粛期間が始まり、基本的に家や玄関先で遊び、買物等も姉妹で留守番をさせている間に済ませることが多くなりました。娘と手をつなぎ、登園したり、散歩したりということはほとんどなかったと思います。

休園が明け、久しぶりに娘と手をつないだ時、なんだかしつかりしたような以前と違うように感じました。自粛中も、手をつなぐこともあったと思いますが、気忙しく、成長を感じる余裕がなかったのかもしれない。

久しぶりに戻ってきたような日常を、娘の手のあたたかさに幸せを感じ、手をつないでいたい、そして穏やかで幸せな日々をつないでいきたいと思いました。

悩んだり迷ったりの子育ての中で、手をつなぎ体温を感じ合うことの大切さを、改めて感じたコロナ禍でした。

(T・F)

「宝物のようなひととき」

僕は見いひん——動画をみるなり息子が言い放った姿が予想外だった。

四月——新型コロナの影響で休園が決まり、園では様々に工夫され、動画も作成された。先生方が園庭で歌や遊びを披露され、心遣いに満ちていた。息子は最初は物珍しげだった。が、離れていった。仕方ない。わたしは家事をしながら見ていた。次々に流れていく中で、一つのシーンでわたしは目が、意識が止まった。〇〇先生が泣いている。『またみんなで遊ぼうね』と、先生方がおっしゃったあと、〇〇先生が両手で顔を覆われた。ああ、と思った。

〇〇先生は、息子が年少時の担任だ。感情が豊かで繊細で、経験則でない(園の先生方に通じる)、子ども達を第一に考えて、真剣で、その溢れた思いが涙になる。わたしは、そう感じ取っている。

だから先生、我慢されていたのではないですか？

子どもたちの元気な姿、明るい声がなくなってしまうた園は、皆が行かなくなつた訳ではなく、行けなくなつてしまった。がらんとしているけれど、飛びはねる子どもたちの姿が目に見え、静かな世界の向こうには子どもたちの存在が確実にある。そして、子どもたちの数だけご家庭の思いもある。そういう言い表せない、見えなくても慕える結びつきを、この先生は知っている。

稲妻が打ったように、パッパッパッと心と頭に入ってきた時、わたしも先生と同様に熱いものがこみ上げてきた。だから息子は、一緒に過ごす場所を画面越しで見られなかった？けれども、息子に答えを求めなかった。

何事もなければ見過ごしていた。世界が混沌としている時に悠長だと思ふ。けれど、不便な時だからこそ気づけた一端で、不意に授かった宝物のようなひとときだった。

登園が再開し、息子が笑顔で言った。
「来週の月曜日と火曜日は、幼稚園で忍者ごっこ
の続きをするねん！」
(N・Y)

おそうじはぼくがやる!!
ママはパンダのようにゴロゴロしといて。

コロナ禍で年長の息子と過ごした日々。お手伝
いしてくれて嬉しかったです。パンダができて
思わず笑ってしまいました😊
(N・H)

あの日が起きるまで普通の日常を世界中の人々
が送っていたように感じる。幼稚園に通う時間は
親子にとり貴重な時間である。園という社会に出
る、女性として母として一人の時間がもてる。緊
急事態宣言に耳を疑った。園が休みになった。自

宅で何をして過ごせばいいのかとまどった。外出
自粛と県をまたいではならないの報道に子の将来
は日本経済は、未来はどうなるのだろうかと感じ
た。母として何ができるのか考えた。快適に過ご
せるようにと断捨離をはじめた。子に不安を与え
ぬよう母としてしっかりとしなければと心に決め
た。常日頃思う。家庭はユーモアが必要だと強く
思う。子は環境により大きく変わる。体験として
身に染みている。工夫や知恵を出すというのでも大
切だと感じている。毎日時間割を娘と決めた。い
つもと同じ生活リズムをくずさないよう決めた。
今の心はどう移るのか、娘に沢山の絵と一緒に書
こうと書いた。又一緒に絵がみれるように位置を
定めかざった。お手伝いも沢山してくれた。娘は
可愛いく愛おしく我が子は宝だと思っている。し
かし用事は、増えてつづける。中断される日々、ス
トレスフルになった。そんな時「お母さん大好き
よ。いつもありがとう。私もお手伝いするわ。」

と笑顔で話す娘。「毎日一緒にいれて嬉しいわ。
大好きよ。」そういう娘。子育てする事で知った

喜び。愛とは、慈悲とは、幸い時程身近に感じる
物かも知れないと思った。幼稚園から帰宅する度
「今日も楽しかったよ。」という娘。親として一番
一日でその言葉をきく時が安心する。今日一日一
日を大切に生きようと願う。コロナウイルスに負
けないように、一日も早い収束を心から願ってや
まない。どうか世界中の子供達の未来が安心して
普通の生活ができますように。
(S・H)

子育ての中で見つけた嬉しい事

お料理と妹が大好きになったのは

コロナのおかげかな。

二〇二〇年、幼稚園が長期休園になり、自粛生
活の中で楽しい事を見つけようと、皮も手作りの
餃子作り、自家製ホットケーキミックスでのパン
ケーキ作り、白玉だんご作り等みんなで楽しくで
きました。

○歳の妹の成長、寝返りや離乳食、ハイハイ等
をみんなで見る事ができ、さらに大好きになった
ようです。

長く大変な事もありましたが、みんなで過ごせ
て楽しい期間でした。
(A・T)



娘が第二子を妊娠したので、最近は私が幼稚園の送迎をしています。

お迎えの際、他のお子さんは「お母さん」など可愛らしく手を振っていますが、うちの孫だけは戦闘ポーズに戦闘モード、眉間にシワをよせて出てきます。孫いわく、「じーやんは、ワル友」。ワル友仲間にしてくれてありがとう。(T・H)

あなたの「おいしい顔」が大好きだから、今日もばあばは頑張ってお料理します。

今はできないけど、家族、親戚あつまってパーティーがしたいね。(H・H)

•今はなかなか会えないけど、電話越しに聞こえる元気な声に成長しているなあと実感。

•ポケモンについてたくさん説明してくれる。全然覚えられないけど、一生懸命な姿がかわいい。(M・Y)

チャレンジしよう

精一杯 たのしみながら がんばって
でも できなくっても いいからね

元気で健康に

それだけでいいと思っていたはずなのに

元気すぎて 困り顔 (Y・K)

がんばって お手伝いしたご飯は おいしいね。(Y・I)

かわいい抱っこもギリギリ出来る今を大事にしたいなという思いで書きました!! (K・S)

•暗い部屋へ入るのを怖がる兄に、「わたしが一緒だから怖くないでしょ」と頼もしい妹。

•かるた遊びで字が読めず、札が取れない妹に、自分が取った札を譲るやさしい兄。

•何でもない時も、私の機嫌を取る時も、「母ちゃん大好き!」と嬉しい言葉をかけてくれること。

•夏休み、いっぱい遊んで小麦肌。(S・I)

健やかに大きくなってほしいけど、まだまだキュッと抱きしめてたいな。

すすすくと大きく育ってくれることが嬉しいのですが、大きくなって抱っこするのも一苦勞の今日この頃。

①息子よ、いつもママを守ってくれてありがとう。

②ママは君の横顔に見とれるんだ。目もまつげも耳のうぶ毛でさえもキラキラしているから。

③「まあまあ、そのへんで怒るのはやめておこう」と言うのは、母親が父親にたしなめられるのではなく、子が父親に言ってくれる。「ママはがんばってると思うで」

ママ頼りなくてごめんよ。

(S・I)
(A・I)

私は虫が苦手で子どもも虫嫌いになりました。

しかし夫と娘だけ出掛けたときは、今日こんな虫つかまえたよー！とうれしそうに話してくれま
す。そんな時、友だちにどこか子どもがあそべる
場所ないかな？ときくと親が楽しんでいたら子ど
もはどこでも楽しいよと言われ、はっとしました。
それからは私も思い切り楽しもうと決め、一緒
に川にもぐって魚をつかまえたり、沢ガニやエビ
つり、虫とりを一緒にチャレンジしてきました。
気づいたら虫も平気になり、子どももカエルをつ
かまえるくらい成長していました。子どもにこの
夏何が楽しかった？ときくと「全部楽しかったけ
どママとパパと一緒に虫とか魚とかつかまえた
ことかな」と場所よりも何か一緒に取り組んだこ
とが印象に残っていることに気付きました。

子どもの成長もうれしかったですし、親も子ど
もとともに成長でき今後も貴重な子どもとの時間
を大切に過ごしたいと思いました。

(M・O)

「はがぬけた!!」

今だけの かわいい笑顔
みんなにも 見せたいね

少し会わないうちに

こんなにできることが増えたんだね
大きくなったね うれしいね

(S・U)

「子育てに」

楽しくなった……会話ができるように。

楽になった……思いが伝えられるようになった。
イライラしなくなった……少しだけお兄ちゃんに
なった。

笑えるようになった……モノマネが上手くなった。
うれしくなった……一生懸命がんばってる姿がある。
感動した……集団生活もできず、言葉もしゃべれ

ず、入園に不安があった我ががここまで成長し
た。

感謝……お友達・先生方・幼稚園、そして我が子
にありがとう。

(K・Y)

家族でテレビを見ていて、ある芸人さんのギャ
グでみんな爆笑。次の日からそのギャグばか
りまねをするので、「そんなにおもしろかった？
気に入ったんやね」と言うと、「お母さんが笑っ
てたから。お母さんにいつも笑ってほしいから」
と答えた。本当に可愛いくて嬉しかった。

(Y・N)

あるデイズニ映画にハマって観ていました。
すると……

お母さんも骨になるん？(ガイコツの事です)
死んでも骨になって会えるの？○○より(娘)お
母さんは先に死ぬの？と質問攻めです。

どっちが先に死んでしまうか分からないこと、
見えないかもしれないけどずっとそばにいるんだ
よとおはなしをしました。

「じゃあ、お母さんのからあげとえびのレンコ
ンの揚げたやつ作り方おしえてな。」

娘の大好きなメニューでした。娘がどう思い、
そんな事を言ったのかは分かりまん。まだまだ幼
いと思っていた次女も色々な事を考え成長してい
るなあと感じた出来事でした。

バタバタと当たり前のように過ぎる毎日です
が、一日一日が大切なんだと改めて感じさせられ
ました。

(A・K)

長い長い自粛生活。ずっと続く親子生活に疲れた事もたくさんあったけど、成長した姿もたくさん見ることが出来ました。

料理に興味がある五歳の娘、最近はお昼ごはんを作る！と言って、何故か自分の苦手な野菜を切り刻み、味付けはケチャップ、チーズに卵を投入して、出来上がり！が定着。

美味しいねって言いながら食べている顔をみながら食べるご飯は幸せ時間のひとつになりました。

(K・K)

在宅勤務

「仕事しているお父さんはかっこいい」って言うてくれたから

いつもよりキーボードを叩いてる (H・K)

五歳の差姉妹二人きりで初めて寝た日、中々寝つけなくて困ってた姉に、

「目をつぶって、口を開いて、スーッと鼻で息をして、楽しい事考えてごらん。」と言った妹。

ママがいつも言ってる事、聞いてないようで、ちゃんと心に残ってたんだと感心。

妹のおかげで寝れた、とうれしそうに感謝する姉に拍手。

(Y・K)

親の聴く音楽や、見るドラマの空耳度がすごい。最近では再放送された「やまとなでしこ」。

その中の神野桜子、通称「さくらこさん」は「さくらんぼさん」と聞こえるらしい。可愛いので、そのままにしている。

録画を「さくらんぼさんを見よう！」と言う。その度に萌える。

勿論、エンディングテーマも空耳。 (A・A)

早生まれ、みんなについて行くのは大変だけど、常に努力するクセはつく。

(M・K)

いつもより一緒に過ごす時間が長い夏休み、もちろん楽しい時間ですが、毎日三食作り、度々おこるケンカをとめたり、お風呂、寝かしつけ、少し疲れたなと思うときもありました。

そんなある日、子供たちが「今日は二人だけでお風呂入って二人で寝るから。」と言いだしました。そして本当に二人でささとお風呂に入り、あつという間に二人で寝ました。すごく楽だな、成長したなと思いました、その日は少しさみしさを感じました。手がかからないことにびっくりしました。

毎日バタバタと過ごしていますが、あつという間に過ぎていく手のかかる期間の日々を大切に過ごしていきたいと思いました。

(E・Y)

私には、三歳と七歳の二人の男の子がいます。

子供たちがかけてくれる言葉にびっくりするところが増えてきました。少し疲れて横になっていると、ひざ掛けをかけながら「ちよつとゆっくり休んでね」と言ってくれたり、美容室から帰ってくると「前の髪型も良かったけど、今回はもっと可愛いね」と言ってくれたり……。

まだまだ小さいと思っていましたが、子供たちの言葉からも成長を感じてうれしく思っています。

(N・M)

- ・寝る前に毎日聞かせるもたろうおかげでろう読プロ並に

- ・コロナ太り、太った腹でトランポリン子供よろこぶ母複雑

(A・T)

「コロナも悪い事だらけじゃないね」
娘の一言にふと心が軽くなったのをよく覚えて
います。

自粛生活、ワクワクしていた小学校にも行けな
い小学一年生の娘は、三歳の弟とばかり遊ぶ毎日
の中、ある晩御飯の時に、急にニコニコしながら
話し出しました。

いつもなら、飲食店を経営しているパパは夜、
家に居ません。それが飲食店の夜の営業も自粛し
ていた約二カ月、家族全員で、晩御飯を食べ、パ
パとお風呂に入り、一緒に寝るとい生活になっ
たからです。「パパが居たら、夜御飯もなんか豪
華やな」なんて笑いながら。

「コロナも悪い事だらけじゃない」
今、私自身も同じ様な心境です。

自粛期間、毎日「ママ、ママ」と呼ぶ声にヘト
ヘトになり、主人の仕事の変化による新しい時間
の流れにもなかなかついていけず、イライラして

いる事も多かったのに、そんなしんどかった事よ
りも、今思い返してみるとなんだかキラキラした
毎日として思い出されるのです。パパとお風呂で
はしゃぐ声も、二階から聞こえてくる寝る前のク
スクスと笑う楽しそうな声も、いつもより大切な
ものに感じました。

家族の在り方もいろいろと試される中、家族が
ぐっと近付ける、向かい合える、大事な時間をも
らった様なそんな気持ちです。

今までもそしてこれからも無いであろう家族全
員で毎日過ごせた夜の時間、「幸せな時間だった
なあ」と最近主人も呟きました。

まだまだどうなるか分からない状況の中、ささ
やかな日常が本当に大切なあと実感していま
す。

でも、何が起きたとしても、家族みんなで笑い
あえていさえすれば、きっと何とかなるなと思っ
今日この頃です。

(K・M)

・一女二男、三者三様、わかっちゃいるけど母
限界

・「母ちゃん大好き」いつまで言ってくれるかな

・息子よ、かわいく言ったら、何でも許すと思っ
なよ！

結局許しちゃうんだけど……

・母ちゃんが「死んじゃうからやめとくわ」上に
ドスンと乗ってこない五歳の息子の優しさを
感じた夏

・自粛中、自転車、大縄できました。

・自粛中、沢山会話家族時間、濃厚接触

(T・K)

友達と仲良く遊べてるかな
色々不安で考えてしまうけれど
笑顔で帰って来ると その心配も
取り越し苦労だったようだ

(S・H)



・コロナうつどこふく風の三兄弟
今日は何して遊ぼうか

・微熱あり さわぎたてるのは親ばかり

・自しゆく中 三兄弟で料理する
得意メニューはオムレツだ

・自しゆく中 家族のアイドル青虫くん
今日ももりもり葉を食べる

・自しゆく中 弟喜ぶ学校ごっこ
教え上手は兄ちゃん先生

・大好きなばあばにあてたラブレター
笑顔を想って せつせと書くよ

(M・H)

・母親の学力上がった春休み

・夏休み遠出の旅はできないが
子供は元気に毎日セミ捕り

・カブトムシ 初めて飼ってみたけれど
イモムシ出てきてぎゃあぎゃあ悲鳴

(K・H)

里帰り出産をした時の事、田舎で二ヶ月間過
した。

庭にテントを張って机を置きお絵かき、小さな
おもちゃスコップで畑に野菜を植え、元気いっぱ
い公園を走り回り子供はのびのびとした生活を
送った。

スーパーに行った時の事だ。

「このお菓子買ってー!!」

「それは買わんぞ」

「……じいちゃん、それは作った人に失礼だよ」
「うーん」

また、ばあばとケンカして、どこで言葉を覚え
たのか「家出する」と玄関をでて、家の周囲をぐ
るぐる回る姿を目を細めながら見ていたばあばの
「入っておいで」の言葉に、嬉しそうに急いで入っ
てきた事もあった。

「今日はじいちゃんと寝る」

「寝相が凄くて顔を蹴られるからだめ」

「じいちゃん、がまんだよ」
と言われた事も。

京都に帰る時は、

「じいちゃん、ばあば、昔みたいにまた行くね」
来ると行くが逆になっており、また、小さな子供
の昔って何だとみんな大笑いだった。

京都に着いて電話した時、帰り際に渡した子供
の手紙を見たと父の声が涙声に聞こえた。

田舎で短い期間の小さな出来事は、三世代で暮
らすことを子供も学び、私自身も両親と共に幸せ
な時間を過ごす事が出来た。

そのことをまた子供達に話していこうと思う。

(F・O)



我が家には年長と年少の二人の男の子がいます。休園前に長男が幼稚園で育てていたイチゴのことをよく話していたのを思い出し、ペランダ菜園に挑戦してみました。

最初はラディッシュを種から植えて育ててみることにしました。芽が出るまでの数日間は子どもたちは、あまり興味を持っていませんでしたが、ある日小さな芽を見つけてからは、毎日水やりをして、「早く大きくなあれ!」と話しかけながらラディッシュの成長を心待ちにしていました。種まきをしてから約一ヵ月後に収穫の日を迎え、土からスポツと抜ける感覚が楽しくて仕方がない様子の子どもたち。穫れたラディッシュはスライスしてサラダにすると、「からーいっ!」と言いながら、どこか嬉しそうに食べていました。

その後はプチトマト、オクラ、大葉を育てました。

長男は「しそちゃん」と名前を付けて、毎日水をやりながら話しかけていました。初めて収穫した大葉を「食べてみたい!」と言ったので、少しちぎって口に入れてあげると、「うわー!なんか嫌な味……」と困った顔をしていました。なので、その日は食べやすいように餃子に入れると、「しそちゃん入ってるの! おいしいね!」とパクパク食べてくれました。その後も肉巻きやパスタ、そうめんの薬味として食べるうちに、長男は大葉が大好きになりました。夏休みに入ってから、そうめんを食べる時には、「しそちゃん、とってくるー!」と進んでお手伝いをしてくれました。

今回の自粛生活中に始めたペランダ菜園を通して、食べ物大切さ、好き嫌いなく何でも食べることを、少しでも感じていてくれたら嬉しく思います。

(R・Y)

寝る部屋にやっと思った息子から、「ママ、ママ」と呼ぶ声が。

今度は何とか苛立ちながらたずねると、「寝るとき、絶対僕の隣で寝てねー」と叫び声。一機に優しい気持ちに切り替わる。

コロナ自粛の期間中

世の中暗いムードでも

家の中はいつも元気な笑い声

(M・U)

初めの自粛生活

我が家には四人の子どもが居ます。

三月から人生初の自粛生活が始まり、今までの普通の生活の有難さを感じました。

上三人は自分なりに遊びを見つけ、日々過ごしていました。

一番下の子は、今年入園したての年少さん。まだ遊びも見つけられず、日に日にストレスが溜まり、癇癪を起してよく泣き叫ぶようになりました。言葉の発達が遅い子で、自分の気持ちを伝えられない苛立ちもあったと思います。

そんな中、近所から、子どもの声がうるさいと苦情が来てしまいました。

私はどうする事もできず、部屋の窓を極力閉め、ただただ毎日子どもに

静かにしなさいと言う事しか出来ませんでした。

四月になり、入園式を迎え午前中だけ登園できる日がありました。

久しぶりの幼稚園で、大丈夫かな?と思っていました。本人にはよっぽど楽しかった様で、幼稚園に行った日から、癇癪が無くなりました。

今まで普通に行けていた幼稚園が、これほどまで重要だったんだ。と気づかされた出来事でした。

今では、毎日楽しみに園リュックを背負い幼稚園へ登園してくれます。

自粛生活の前よりも、子どもの成長する姿がもっともっと楽しみにまりました。

(K・T)

私は小学四年生の男の子と、年長の男の子の二人の子どまがいます。

毎日、学校や幼稚園に行って元気いっぱい身体を動かして楽しく過ごす当たり前のようだった日常が、新型コロナウイルス感染症のため、自粛生活を余儀なくされた日々は、本当に子どもたちにとっても、親の私にとってもすごく辛い期間でした。

初めの頃に限っては、学校が休校になり喜んでいた長男でしたが、外で遊びたくてもなかなか自由に遊べず、大好きなお友達とも会えず、学校から出されたたくさん課題をこなす毎日に、いつ

もなら仲良く遊んでいた次男と、よくケンカをするようになりました。そのたびにケンカの仲裁に入っていた私もだんだん疲れていき、「都合よくケンカした時だけママ！ママ！！って助けを求めるのやめてよ！」

と言ってしまいました。今思えば、自分がいっぱいになっていったんだと思いますが、その時はそんな事にも気が付けず……。

そんな時、ケンカばかりしていた二人がコソコソと話し始めて、私のもとに來たと思ったら、「今日のお昼ご飯、僕たちが作ってあげるようだからママはずっと座ってて。」

と言って、二人仲良くおにぎりとスクランブルエッグを作ってくれました。今までそんなことは一度もなくビックリしましたが、二人の気持が本当に嬉しくて、一生懸命作ってくれたお昼ご飯は何よりも幸せな時間でした。

その日の夜、二人が寝るときに

「今日はおいしいお昼ご飯をありがとう。すごいおいしかったし、何よりもママは嬉しかったよ！」と伝えると、

「だって僕たち、ママが大好きやもん！」

と言ってくれた時、この自粛生活でしか味わえない子どもたちとの時間をもっと大切にしようと決めた瞬間でした。

(K・M)

長期化しているコロナ禍で、休園休校在宅勤務。春休みに夏休み、いつまで続くのこの新様式。

居間のソファはトランポリン、二段ベッドはジャングルジム。びっくりしたよ、ソファの背もたれ。雪崩するようにくずれたね。

ソファを捨てたらできたスペース。そこに敷いたよ厚手のマット。期待したのよ防音効果。すぐにわかったその間違い。防音効果はあったけど、所詮マットは運動場。

在宅勤務の父親と、元気あふれる三兄弟。言わずもがなで発生す、回避不可能その衝突。

三人寄れば何とやら。三人寄れば**姦**しい。男も女も性差無し。そうだからこちら目指そうか。三人寄れば文殊の知恵。力を合わせて立ち向かえ。

母も母とて奮闘中。今日のお昼は何作ろ。昨日のメニューはチャーハンで、今日はオムライスにしてみよう。なにになにおかずが足りない？なるほどそれも、そうかもね。そうだから今は非常時だ。一日二食にしてみない？

いつになるかなコロナ終息。終息したらしたいこと。家族旅行に行きたいな。マスクを取って、電車に乗って。行列に並んでおしゃべりしよう。

(M・F)

ぼーっとして過ごした時間のはてに……

「あー暇。ひま、ひま、漫画も読んじゃった。ひまー」

「いつも遊ぶ時間がないじゃない、って言っていたし、この際何かしらいいじゃない？」

「えー？ 友達とも遊べへんし、遊びに行ったらいかんっていうし」

・・・

「あ、そうや！ 俺、魚の絵を描きたかったんやった、そうやったそうやった！」

息子は、大発見したかのような、すごいことを思いついたかのようなうれしそうな表情をしていました。その時の生き生きとした表情はきつと忘れることはないと思います。

その後、息子は五日かかって、四つ切り画用紙にたくさんの魚の絵を描きました。途中、息子に

呼ばれて一緒に魚を描いたりもしました。息子は、私に魚の描き方を教えながら。「図鑑をこうやって、こうしたら描けるやろ？ 幼稚園の時、Y先生に教えてもらった」とか」「(幼稚園の) 作品展で俺は、魚描いた」など、幼稚園の時の話もしました。もう五年前の話です。

毎日ぼーっとする暇もなくこのまま忙しく過ごしていたら気づけなかったかもしれない息子がやりたかったこと。自粛期間中に、じっくり取り組むことができました。小さな幸せです。ついつい描いた絵を誰かに見せたり絵画コンテストに応募しようかと勧めてみましたが、息子は、絵が返ってこないと嫌だし、誰にも見せたくないと思っただので、大切に保管しました。魚好きのきっかけを作ってもらい、魚をもっと知りたいという好奇心を育ててもらった幼稚園生活を懐かしく思い出すこともできました。自粛明け、息子はというと、習い事の数を減らし、三ヶ月の自粛期間中には思

い切り遊ぶことができなかった友達と毎日思い切り遊んでいます。
(K・O)

当たり前か！ コロナ予防のつもりが 風邪予防

「あ、うちもだよ」

「やっぱり？」

「最近、あんまり体調くずさないなあーとか思ってたさー」

「手洗いうがいとか、マスクとかちゃんとしてるじゃん？」

「うん、そうかもね」

幼稚園のママ友との何気ない会話を思い出しました。手洗い・うがい・マスク・水分多めにとって・食事・十分な睡眠……コロナ予防だと思って一生懸命やっているけれど、あれ？ 今年子ども

たちが夏風邪を引かず、鼻水も垂らさずに生活しているぞ。大人よりも子どもたちがコロナに対して過敏になり、心配もしていました。予防しようとする行動が身についたことはよかったなあと思います。
(K・O)

夫の勤務先からご褒美。

コロナがあってもなくても主婦の仕事はそんなに変わることもなく、特別に感謝されるようなこともしないけれど、夫の会社から、自粛期間中はご家族の方にご迷惑をおかけしましたというねぎらい？ 感謝？ の意味の、カタログギフトが届いたときには、少しうれしかった。
(K・O)

幼稚園時代にタイムスリップしたみたい

突然、幼稚園時代のお友達から「あそべる？」とLINEが来たのは五月。五年前、息子が幼稚園に通っていたときのお友達でした。小学校も別々だったので、本当に久しぶりでした。公園で遭遇した友達から息子のことを聞いたようで、連絡をしたと言うことでした。さっそく昼から鴨川に行き、生き物探しの始まりです。すぐに幼稚園時代のように「しんちゃん」「こうすけ」と呼び合って、鴨川に入って、遊び始めました。後日もまた、鴨川に行き、生き物探し。「釣り竿とえさもってきたで」網ある？二人は楽しそうでした。二人の姿を見ていて、幼稚園時代、三年間毎日のように一緒に遊んでいたこと、けんかして息子がよくそのお友達を泣かしていたことなど記憶がよみがえってきて、少し豊かな気持ちになりました。すごくたくましくなったお友達にうれしくもなり

ました。

改めて、幼稚園時代は本当に濃密な、貴重な時間だったんだなあ、卒園してもう五年もたつのか、幼稚園時代はいつもお友達に助けてもらっていたな、もう少し、ゆっくりおおらかに息子に接してもいいのかなと、いろいろなことを感じた機会でした。

(K・O)

「いま ありがとう」

いろいろなことを 忘れかけている

UNOにトランプ 人生ゲーム

五十回は見たお気に入りの映画

お風呂ではしゃいだみず風船

いろいろなことを 忘れかけている

みんなで描いた静物画

おばあちゃんから毎週届くマスクの刺繍

日が暮れた後の人気のない公園

いろいろなことは 忘れられていく

(J・K)

二人が赤ちゃんのころは、お母さんひとりになりたかった。

二人が大きくなって、ひとりになって少ししょんぼり

二人がずっと家にいて、幸せ満タン。ありがとう。

(A・H)

おべんとう

めんどくさいけど

うれしそう。

(M・S)

「お母さんはオレがまもる！」

今日は小さなライダーくん、

明日は何になるのかな？

(R・F)



七歳と五歳の息子は、料理をしていると興味津々で、「何か手伝いたい。」とよく言います。

上の子は、包丁で切ったり、フライパンで焼いたりできるようにになりました。カレー作りはマスターしました。

下の子は、まぜたり、お米をといだりお手伝いしてくれます。

卵焼きと、ホットケーキ作りにもチャレンジしました。

料理は楽しい、と思えるような経験をたくさんさせてあげたいです。

(M・S)

「コロナ怖いもんねー」と言いながら、おやつ前に手指を消毒する息子。わが子ながら短期間でいい習慣を身につけてくれたな、と感動した直後、おもむろに鼻をホジホジ、その指をためらいもせずパクパク

こちらは前々からの習慣ね、と苦笑いしてしまいました。

なんでもよく食べる息子、

五さいにして四キロのコロナ太りを実現させ、中年太り真つ盛りのパパと一緒にの体型に。

前後で並ぶ姿はまるでトトロと小トトロのようで太りすぎかな、と焦りつつも、いやされてしまっています。

(Y・M)

自肅中、今まで当たり前のように過ごしてきた毎日がどれだけ幸せだったのか思い知りました。人との距離があく事によって不便になっていく日常が辛く、ゴールもない日々到现在までとまどっております。

年少と年長の子供がいる我が家では「コロナなくなれー」と叫んでいたりと、突然「バブー」と

言ったり、赤ちゃんと幼児の往復をしていました。

幼児期の子の大切な時期にほぼワンオペで家事もこなし、先生へのありがたみも増し、自分の時間というものがなくなり、気持ちに余裕を持つ事の大切さも痛感しました。

後から振り返った時に「あの時間をもっと楽しめば良かった」と思わなくていいように、大人もホッとできる時間を一日のどこかで持てるということだと思います。

幼稚園の先生方、いつも本当にありがとうございます!!

(S・N)

私のかわいい三人の子供達へ

自宅での自肅期間、毎日、怒ってごめんよ。君達が寝た後にいつも反省してるんだよ、ママは。



それは、怒っちゃうようなこともいっぱいあるけど、ふとした時に気付く君達の成長にびっくりして、心からうれしく思っているからなんだよ。逆上がりの練習、ひらがなの練習、かけ算、少しずつ毎日頑張ったよね!!

出来なかったことが、努力で出来るようになってる。すごいことだね。ママは、これからもそんな君達の成長を見落とさないようにガミガミ言わずに見守るよ。

いつもより、長く一緒に過ごせた自肅期間。今思えば楽しかったね!!

(A・S)

新型コロナウイルスの予防について、子供にしっかりと伝えておかなければならないと思い、「いつもの手あらい、うがいも大切だけどお外では、マスク、消毒、ソーシャルディスタンス」と伝えていました。

子供は、「ソーシャルディスタンス」というひびきが気に入ったのか、何度も言っていたので、もう一度意味を伝えると、今まで「ギューしょ」というとすぐにハグをしてくれていたのに、「ソーシャルディスタンス」と二回に一回ほど、ことわられるようになりました!!

本人は、わざとやっているのか、ニタニタしながら「ママ、ソーシャルディスタンス 知らないの?」と言っています。

(Y・M)

・年長の娘が体格もしっかりしてきて、できる運動が増えてきた。寝相さえもパワフルで、家族揃っての雑魚寝も蹴られて痛かったり、難しくなってきた。

・三歳の年少の次女が「やられたらやり返す……倍返しだ!」と言うのにハマっている。

・コロナ禍で特殊な状況下でも、子供はすくすく育つのだなあと当たり前のことですが感心している。

手洗い、消毒、マスクなど、しっかりと意味を理解して習慣に出来ている。

(K・F)

この自粛期間を通して、親子共々ストレスを感じ、気分が落ち込む事もありましたが、今年の少し短い夏休みは充実していたように思います。

毎年エアコンを効かせた部屋でだらだらと過ごしてしまいがちだったこの時期ですが、午前中は小

学生のお兄さんといっしょにひらがなのお勉強をさせてみたり、机に向かう習慣をつけひらがなのお勉強をさせてみたり、机に向かう習慣をつけ午後は子供がやりたい事を!真夏の動物園や植物園はなかなか辛い思いもしましたが、毎日のようにお庭でプールや虫とりにも出掛けて、子供と一緒に日焼けを乐しめた夏の思い出です。

(R・S)

お手伝いで

小二の上の子にお皿洗いをしてもらっていた時、「私もできるー!」と年少の下の子が食事し終えたお皿を持ってきて、上の子がスポンジ担当、下の子が泡を流す担当で洗ってくれました。

コロナの自粛生活や夏休みに兄妹げんかをする事が多々ありましたが、分担を決めお手伝いをし終えてくれた事に成長を感じました。

(M・I)

我が家には四人の子どもがいます。自粛期間中は外遊びで発散できないので喧嘩がしょっちゅうで大声で仲裁に入ることもありました。しかし、グツとこらえて子どもたちの喧嘩を見守ると自然と仲直りし、何事もなかったかのようにまた仲良く遊んでいるのです。喧嘩というネガティブなイメージでしたが、子どもたちにとってはルールや人の心を学んだり、人と深くかわっていくための大切な経験になっているんだなというのを感じました。

(H・Y)



自粛中になぜか牛乳が大好きになった姉弟。
今まで体重が軽めでせっせとごはんを食べさせ、体重が増えるように頑張ってきましたが、姉の体重がどんどん増加。今度は増えすぎないように気をつけるまでになりました。
動く量が減ったり、牛乳だけのせいではないとは思いますが、やはり牛乳のカロリーの高さではないかと思っています。
この調子で身長の方に伸びてくれると嬉しいなあと思います。

(A・F)

これは長女が幼稚園で書いてきた七夕の短冊です。

『みんながようちえんにげんきにされます(くれます)ように』

コロナで休園になり預かり保育のみの期間が長く続いてお友達に会えないことがさみしかったよ

うです。

願いがかなってよかったね!!



(S・S)

我が家、小三、小一、年少の男三兄弟

コロナ自粛で、小学校も幼稚園もお休みだった時、スーパ―に連れて行くのも気がはばかられ、十分開らいだしとお留守番してもらった。

その間に三男がおしっこに行きたくなったらしい。

やったことなのに、長男がトイレに座らせおしっこさせてくれて、次男が手を洗う手伝いをしてくれた。

この事を話してくれた三人の顔がドヤ顔だった。

玄関で見た『目キラキラのドヤ顔』、目に焼きついています。

三人共、ありがとう!!

(M・F)

体力を持てあまし、トランポリンを買って発散

させようと、迷ったあげく購入。見ている方が船酔い感覚がしてくる程跳び、ただ跳ぶだけでは飽き足らず、トランポリンのふちにプラレールを走らせながら、ボールを投げながら、洗たくかごを頭にかぶりながら飛んで宇宙飛行士になってみたり、大きな鍋に見立て料理を試みたり、普段は飽きっぽく、すぐに遊ばなくなる息子。

一つの物でたくさん遊び方が考えられるようになったんだと新しい発見がありました。さらに、他の人にあれ?姿勢が良くなったのでは?と言われ、たくさん跳んだので体幹も鍛えられたのかな?とうれしいオマケもついてきました。

トランポリンが我が家にきた日のキラキラした笑顔は、ずっと覚えてたいです。

(H・M)

『何か動いた!』

新しい命を授かり、子どもにお腹の中に赤ちゃんがいることを話しました。三歳にもなると、理解してくれるかなと思っていたら、変わらず抱っこをせがむし、寝るときは私のお腹を枕にしています。

コロナで一緒に健診に行けず、エコーも見れないので、生まれて姿を見るまでは兄になる自覚は芽生えないだろうと、半ば諦めていました。そんなある日、いつも通り私のお腹を枕にして寝ようとしていた息子。すると、中からドンッと赤ちゃんに蹴られた!

「!? !? 何か動いた! 何かいる!」ビクッ顔で跳ね起きる息子。

「今動いたのが赤ちゃんだよ。重かったのかもね。」と話すと

「ふーん……………思いの? ごめんね?」と。

それから、息子は私のお腹を枕にすることはなくなりました。

さらにお腹を撫でながら「お兄ちゃんだよ」と話しかけるように。

意外な方法で兄になる自覚が芽生えるもんだなと新しい発見でした。

(H・M)

わが家は長女(小六)次女(年少)の二人姉妹。今年はいよいよ次女の幼稚園入園!!……のはずでしたが、自粛生活が続き、どうなるのだろうか……と不安な気持ちでいました。しかし子ども達はこのような状況の中でも楽しいことを見付けだすプロ!年の離れた二人がずっと一緒の時間を過ごせることはこれまでにほとんどなく、ケンカしながらも庭でキャンプ気分でテントで過ごしたり、家にある野菜を植えて成長を楽しんだり……。

長女の小学校からの課題で出されたパン作りで



は、正直面倒くさい……と思っていたのがいざ一緒にやってみると意外と簡単で楽しく、娘たちもキャーキャー楽しみつ、真剣な眼差しで取り組んでいました。

なんでもやってみないとわからないものだな、と気付かされる出来事でした。

大変な状況の中心配事も多く不安な日々ですが、子ども達の楽しむことへの飽くなき探求心に救われていると実感しています。

こんな時だからこそ前向きに今出来ることを楽しむ工夫を心掛けたいと思わせてくれた子ども達! 本当にありがとう。

(T・O)

我が家にウォータースライダーがある。と言っても豪邸なんかではなく、ごく普通の一軒家だ。しかしそれは突然現れた。三人兄弟の真ん中五歳が全裸になって室内ジャングルジムのすべり台から水を流し滑っているではないか! 私の脳内は? ?で埋め尽くされ、怒りを通り越し笑いがこみ上げてきた。ああそうか、今日はプール開きの日か! そんな考えが浮かぶぐらい、育児に余裕ができたなあと自分を褒めてあげたかった。もうやるならもっと豪快にやるんだ! 滑りきるんだ息子よ! 一緒に協力して日本中探してもないであろうアトラクションを楽しんだ。

長時間の自粛生活に加え、身の危険を感じる暑さでこどもたちにはなるべくストレスのない生活を送ってもらいたい。そのためには大人がもっと寛容になってもいいんじゃないかと思わせてくれた我が子に感謝したい。

(M・H)

コロナ休みになり近くの公園へ散歩に行った際
地下鉄の乗り口を聞いてこられた老人を

「こっちこっち」と招きながら道案内をする娘。

歩く速度のゆっくりな方を気づかいながら

声をかける姿がとても優しく、見ている親としても嬉しい姿でした。

(M・K)

幼稚園がお休みになり、外にも出られず、娘と二人おもちや箱の掃除をしていました。すると去年の幼稚園の運動会で頂いた縄跳びが出てきました。頂いた時は跳ぶ事はもちろんの事、縄の回し方や使い方など何も知らず、教えても全然出来ずに娘も飽きてしまい、ずっと片付けていたままでした。その運動会から半年しか経っておらず、まだ出来ないだろうなと思っていましたが、娘がやりたいと言うので教えてみると、縄の回し方が半年前よりしっかりしており、飛ぶ事は出来ません

でしたが、以前とは全然違っておりました。娘自身もそれを感じたのか飽きる事なく毎日跳ぶようになりました。毎日跳び続けると今日は縄が回せ次の日は一回縄を跳ぶ事ができ、その次の日はゆっくり二回跳べという風に日に日に跳べるようになっていきました。二週間もあれば普通に跳べるようになり、まだまだ日に日にスピードがあがっています。こんなに子供というのは毎日成長するのだという事を改めて一緒にいる事で感じる事ができました。普段の生活の中では出来た事は当たり前で、その次はこれが出来て欲しいと欲が出てしまうのですが、このように娘とずっと一緒にいる時間があり、改めて出来た事を見てみると当たり前ではなく成長したんだなど感じる事ができました。

(T・N)

春から初夏にかけて自粛期間、我が家はほぼ毎日公園に出かけていました。その頃は公園に行くのも賛否が分かれるような状況でしたが、家の中ではすぐ子どもを怒ってしまつて。近所の小さな公園に集まる顔ぶれはだんだん決まってきた、毎日五組ほどの親子が顔を合わせて、何時間も過ごす日々でした。

始めは家族単位や顔見知り同士で遊んでいた子どもたちが、少しずつ一緒に遊ぶようになり、親同士も話すようになり……。感染症対策のことを考えればほめられたことではなかったと思いますが、心の健康という意味では、公園で過ごす時間にずいぶん助けられていたと思います。

いろんな年齢の子たちが一緒に遊ぶ、昭和の公園のような状態になっていました。

その中で、わがままで頼りないと思っていた長男が誰とでも仲良く遊べること、お友達を尊重すること。まだ小さな次男が、ぐいぐいとみんなの

輪に入っていった元氣よく遊んでいること。そんな姿を見て「なかなかいい子たちやん」と妙に客観的な気持ちになっていました。

家にいると、ついついできていないことばかり目についてイライラしていましたが、少し離れて子ども同士で遊ぶ姿を見ることが、自分対子どもで煮詰まっていた気持ちにほどこけていったように思います。

自粛が始まってから公園では桜が咲き、葉桜になり、やがて藤棚の藤が咲いて、「このままだとセミが鳴き始めるね」と言っていた頃によくやぐ休校、休園が終わりましたが、あの公園ですごした三カ月は、家族の中での姿しか知らなかった子どもたちの、子供社会での姿を見ることができた時間だったように思います。

今でも、子どものことを怒りそうになる時、あの公園で感じた「なかなかいい子たちやん」という気持ちを感じ出すようにしています。

(H・K)

「こんなに違うの？」

ふたりの子供を育てて思うこと。

それは、人それぞれ個性があるという事！

ひとりとは勝気で反抗的。育てにくい。しかし、なんでもやる気になってがんばる。

もうひとりとは優しくて穏やか。育てやすい。しかし、出来ないとすぐ諦める。

好きな事も違います。

ひとりは運動大好き。声は小さくて、おしゃべりは苦手なほう。

もうひとりは、生き物大好き。声は大きくて、余計な事までしゃべるね！

同じように育てたつもりなのに、びっくりするほど違うふたり。それぞれに得意な事、苦手な事がある。なんで出来ないんだろう……と感じてしまう事もあるけど、その子の良い所にも気が付きながら、子育てをしていきたいと日々感じています。

(M・T)

我が家には小学四年と小学一年の男の子、そして今年幼稚園の年少になった四歳の女の子がいます。今年の夏はコロナの影響でお盆に帰省することもなく、毎日子供三人がけんかをしながら、大変な夏休みを過ごしていました。家にばかりいるのも辛いので、ショッピングセンターでやっていた縁日のイベントに遊びに連れて行くことになりました。

射的やスーパーボールすくいがある中、子供達が真っ先に「やりたい！」と言ったのは、空気でふくらんだ大きなトランポリンの様な遊び場です。お兄ちゃん二人は中でびよんびよん飛び回って遊んでいました。末っ子の娘だけが怖いのか、中で座り込んでしまつて動きません。いつもであれば、お兄ちゃんに頼んで「一緒に遊んであげて」と声掛けする所ですが、娘ももう幼稚園に入り自分でなんとかする力を身に付けただろうと思ひ、黙って見ておくことにしました。すると、真ん中

の息子が妹の手をとつて立たせてあげて、手をつなぎ一緒に遊びだしたのです。

歳が近いこともあり、真ん中の息子と娘はいつもけんかばかり。おもちゃの取り合いになつても、一番上のお兄ちゃん譲ってくれても、真ん中は絶対に譲りません。それでもいつのまにかお兄ちゃんとして妹のことを思いやるようになったのだなあと、嬉しくなりました。娘はけんかしながらも、お兄ちゃん達が大好きです。(S・K)

休園中、情報を得るため一日中テレビをつけていると。

ある日突然、娘が私に向かって某年齢基礎化粧品を試供申し込みを強く勧めてきました。

その後も、そのCMが流れる度に言ってくる娘。娘のやさしさを嬉しく思いながらも、自分が思っている以上に酷い状態なのだろうか、疑心

暗鬼に……

色々な意味でマスクに救われています。

(R・S)

休園から始まった幼稚園生活最後の一年

これまで、時々登園を嫌がることがあった娘なので、家に居られてさぞかし嬉しいだろうと思っていました。

けれど、半月も経たないうちに、毎日のように、「幼稚園でお友達と遊びたい」と訴えるようになりました。まだまだ娘は、母親と一緒にいるのが一番楽しいと思っていました。が、いつの間にか自立の時期が徐々に近づいていることを知り、娘の成長を嬉しく思いつつ、少し寂しさも感じた期間でした。

(R・S)

突然の休校、休園で二十四時間子供達とずっと一緒に過ごす事になった数ヶ月。

この先、こんなにも長く子どもと一緒に過ごせる日はもう来ないだろうと思うと、大変な日々ながらもとても貴重な時間となりました。

そして、その中で沢山の気付きがありました。我が家の五才の息子は自信が持てない事に対して、とても消極的な子で、中でもお絵描きに関しては周りのお友達に比べて上手くないからと言って、家でも幼稚園でもあまり絵を描きたがらない子でした。

そのため、自粛期間を利用し、絵の具やサインペンなどを用意して、一緒に楽しく絵を描く時間を沢山とり、仕上がった絵を見ては具体的に褒めて自信に繋げて欲しいと思っていましたが、やはり本人の絵に対する気持ちは変わる事なく、気付けば自粛期間を終わっていました。

ところが、幼稚園が再開して数週間が過ぎた頃、

食後や寝る前によく絵本を見て過ごしていた息子が、紙と色鉛筆を持って一人でお絵描きする時間が増えていた事に気付きました。

図鑑の中の写真を見ながら描いたり、お友達が描いていたという絵を真似ていたり、私にも可愛い絵を描いてプレゼントしてくれる事が多くなったのです。

もちろん、周りの子に比べるとまだまだ幼い絵ですが、自信をつけて欲しいと思っていたのは私のエゴで、ただ私が周りの子と同じ様に描けるようになって欲しいと思ってしまっていたのではないかと、その時気付かれました。

自信がつくのも好きになるのもその子のペースがあり、その時を待つ事が親が出来る一番大切な事なのだと、再認識する事が出来ました。

子育てはついつい周りと比べてしまいがちですが、数週間、数ヶ月前の我が子と比較したら嬉しい成長ばかりです。

一日も早く平和で穏やかな日常に戻る事を心から願いながら、この先も子供の成長を見守って、時に手を差し伸べて共に成長していきたいと改めて思えた今回の自粛期間でした。

(M・A)

今まで、近所の年の近い子ども達とは、顔を合わせば挨拶する程度で、ほとんど遊んだ事もなかったのですが、休園中は皆ひまを持て余し、いつも家の前に出て遊んでいたのも、いつの間にか一緒に遊ぶようになりました。

始めは大人しく遊んでいた子ども達ですが、お互い慣れて親しくなってくると、刺激？を求めてだんだん遊び方がワイルドに。

ある時は、道路脇に溜まった砂、またある時はご近所に落ちている花びら、アスファルトのすき間にはえている苔、草の葉などなど色んなものをバケツ一杯集めてきては、玄関前にばらまいたり、

水を入れてぐるぐるかき混ぜて、これまた玄関前にジャーと流したり……

本人達的には、おままごととか○○ごっことか立派なストーリーがあった様ですが、家の中で家事をしていて、たまに様子を見に玄関の扉を開けると、そこにはぎよつとする光景が。

彼らにしてみれば、いつも幼稚園でしている遊びを家の前でしたただけなのですが、それを度々片付ける母はちよつと辛かったです。

子どもって何もないように見えるアスファルトの道端でも、こんなに色んな物を見つけて楽しく遊べるんだなと気付くとともに、改めてやりたい放題のびのび遊べる幼稚園って本当に恵まれた環境だなと気付きました。

(K・H)

自粛期間中、子どもとの遊びはもっぱら自宅前でのなわとびでした。

運動不足を解消する目的で始めたことでしたが、そこで子どもの新たな一面に気づかされました。

なわとびを始めた当初、息子はうまく飛べませんでした。てっきりすぐに飽きてしまうかと思っていたのですが、何度ひっかかっても泣かずに練習を続けました。

まだまだ甘ったれだと思っていた息子にこのような一面があるのかと気づき、成長を実感しました。

毎日続けた結果、今ではびよんびよんと軽やかに飛べるようになりました。

子どもの成長を見守ることができたよい機会となりました。

(M・F)

長女が六歳、長男が生後一ヶ月の時に、主人の単身赴任がはじまりました。

当初は、長男の世話にかかりきりになっておりましたので、長女にはさみしい思いをさせたのではないかと思います。

月に三回程帰ってこれますが、主人が帰る時には決まって泣いていました

(慣れって怖いですね……五年経った今では、笑顔で見送っています……)

長男は小さい頃からお父さんがいない時は、〇〇が、お母さんとお姉ちゃんを守らなあかんのやで！と言われていたので、二歳ぐらいからは「僕が守ってあげる」と言ってくれる男らしい男の子になりました。

そんな長男も五歳になり、今年はコロナウイルスの為、自宅で過ごすことが増えいつもは一緒に行っていたスーパーも代表者一名での来店を掲示されているので、子供は留守番となります。

実は長男、自宅では私のトイレの中にまでついてくるほどの超甘えたな性格で、さみしがりで、怖がり……。小学五年のお姉ちゃんとお留守番ができるか不安でした。

そんな心配をよそに、小さいながらコロナの現状を理解しているようで頑張ってお留守番をしてくれています。

日々、成長を感じ、頼もしく思います。

コロナの終息は、いつになるやら……ですが、新しい生活様式の中で、子供達の成長を見逃さないように過ごせたらと感じます。

そして主人はいまだに単身赴任中……。

主人は尚更帰宅するたびに子供達の成長を肌で感じていることと思います。

(Y・T)

新型コロナウイルス感染症の拡大で今までのあたり前の日常が送れない、大変な状況ではありません。

したが、私たち親子にとっては、とても大切な時間を過ごすことができたと思います。

朝早く起きて家族で散歩したことは、ほぼ一日を家の中で過ごしていた私たちには季節を感じられる大切な時間でした。毎年、子供たちと季節を感じることもできる自然へ旅行していましたが、今年は遠出ができないので、普段は歩かない家から三十分程度で行ける場所を選んで散歩しました。春が訪れ、夏が近づいていることを肌で感じることで、また沢山の昆虫や植物をみつけたりと新しい発見がありました。カマキリの卵をみつけた時は大興奮で、卵から数えきれないくらいのカマキリが出てくる瞬間を見ることができました。この偶然的瞬間を家族全員で見れたことはとても貴重な経験でした。また、この話をゆつくりと子どもたちと会話できたことも貴重な時間でした。

これからまだまだしばらく新型コロナウイルス感

染症と向き合っていかなければならない状況が続くと思いますので、できないことばかりを考えるのではなく、この状況の中でまわりへの思いやりを忘れず、できることを考え子供たちと過していきたいと思いました。

(T・N)

三月上旬から幼稚園が休園となり、はじめは公園や御所などの外遊びをすることもありました。旅行には行けないけれど少し長めの春休みぐらいだろうと思っていたのです。ところが日が経つにつれ事態は深刻になるばかり。連日の報道で、字を書くことが大好きな息子はこの状況に何かを感じていたのか「新型コロナウイルス」と書けるようになっていました。

家にいる時間が長くなり、ご飯作りを手伝ってもらって時間がかかってもイライラしない。むしろその方がありがたい。そこでうちでもご飯やお

菓子作りも一緒にする様になりました。特にお菓子作りは二人でキッチンに立って器具を用意するところから始め、秤やスプーンで小麦粉を計ったり生地を混ぜたり全部一緒にしました。

その間、普段はあまり自分の事を話さない息子がいろいろな話をしてくれることがわかりました。ほとんど些細なことなのですが、それは息子にとって初めての従妹が誕生した頃のこと。自分が生まれた時のことを話しました。といつても、「暑くなつて、そろそろでようかな」と思っただけ。」「出たら、あ、〇〇（産院の名前）か、と思っただけ。」「という短いもの。産院の件は後からの想像なのかもしれないだろうが、暑かったのは本人にしかわからない。本当なのかな？幼稚園の絵本やお友達から見聞きしたのかもな……真偽のほどはもちろん不明だ。これからわかることはないだろう。だけれど彼が人生の始まりについて初めて考えて伝えたいと思ったこと。きつと

この時期にキッチンに立たなければわからなかっただろう。大事にしたい。

コロナ禍の中で命にまつわること。閉塞感のある自粛生活の中で、少し大きな世界を見たような気がした。

(E・I)

自粛期間中、元々家あそびが大好きな子どもたちは、一日中色々な事をして遊んでいました。工作、粘土、積み木、お絵描き、ブロック、お人形、電車、ダンボールあそび、カルタ、トランプ、オセロ、等々、遊ぶことへの情熱は尽きることなく、すごいなあと感心するほどでした。

何処かへ遊びに行く、お友だちと遊ぶ、スーパーへ一緒に行くこともほぼガマンの生活の中、お散歩やサイクリングで外へ出たとき、目の前に広がる空や緑、お花がまぶしいくらいきれいで、太陽、風を浴びて空気をマスク越しだけで吸い込むと、

フアーと世界が広がって元気がもらえました。

自然の有り難さを心身共に感じ、子どもたちと感じれる喜びを噛みしめました。

子どもたちと二十四時間ベッタリな日々、途中国々まで続くのかなと、少し疲れたり、不安だったりもしたけど、だんだんその生活にも慣れ母子リズムも掴めてくると、貴重な時間かとも思えるようになりました。家の用事が終わると、子どもと一緒に、遊んだり、おやつや料理を作ったり、断捨離したり、自分たちなりの充実した時間を過ごせたかなあと、思います。

(N・N)



ゆっくりゆったりほっこり最高!!

緑が気持ち良い日、コロナ禍で幼稚園が午前中保育、姉兄は学校、私のバイトも休業中、年少の息子とお出かけのチャンス!! 宝ヶ池へ。

やわらかな小さな手をつなぎ、ほわほわの頭をなでてニッコリの私。

のんびり泳ぐカメやお魚、鳩やスズメにエサをあげてニッコニコの息子、自作のかわいいお歌、後ろ歩きの人を不思議そうに見つめたり、木の棒を見つけて「ザリガニつりに」と家族分。鯉がいったいのスポットへ又、エサをあげたいけどなくなつたね。エサをあげているカップルの近くでダダこねて優しいお兄さんに分けてもらう。

黒っぽい鯉にエサを投げながら「クマハラくん!!」(えっ!?クマ!?斬新なネーミングセンス)「あつちのクマハラくんにも!!」「えっ!?あつちもクマハラくん?」「うん!!黒いのはクマハラくんやねん」黒

いの全員クマハラくんなんや!!おもしろいわ) 次は、アヒルやカモのスポツとへ、又エサをあげてる人の側でグズグズダダこねると優しいおじさんからビスケットを分けてもらう。夢中で投げる!!「なんと、自分の口にも入れている!! 又、エサがなくなり、エサをあげてる人の側でグズグズ三度も!!又優しいおばさんからパンを分けてもらう。

すごい行動力&引き寄せ!?長靴の中まで水が入っても夢中。

歩き疲れたその時、かわいい小鳥が数羽木の枝へ飛んできた。カワセミ!!なんて可愛らしいのでしよう!!絵画の中にいるみたい。自然の美しさ息子の楽しさ、なんてキラキラしたひと時だったのでしょう!!

(そうそう私こういう事したかった!!いつも時間が気になってゆったりできていなかったな。ステキな時間をありがとう)

「くまはらくんどこ、また行こね!!」 (T・T)

我が家の三人兄弟の末っ子、年中の息子は、大きなお風呂が大好きです。遠方に住む祖父母たちと温泉に宿泊に行き美味しいものを食べ、大きなお風呂に入る。いつもとは違う特別で楽しい時間を過ごすことを楽しみにしています。新型コロナの影響で自粛生活が始まり、幼稚園もお休み、祖父母に会いに行くこともできなくなり、毎日元気に過ごしていた息子もだんだん『じーちゃんに会いに行きたい!!』『大きなお風呂に入りたい』と言うようになりました。

そんな中、お風呂でのんびり過ごすことが子供たちと私にとって、とても癒される時間でした。普段は時間に追われ、急かしながら入るお風呂も時間に縛られることなく、のんびりと話をしたり、おもちゃで遊んだり。数字を数えているとき、今までは「一―二―三―」と続いても必ず「七」がとんでしまう息子もやっと二〇まで言えるようになりました。パプリカを歌いながら鏡に☆をたく

さん書いてみたり。人の絵を描けば以前は顔と手足の頭足人だったものが、すっかり体やお洋服まで描くようになってきました。

まだまだ一人ではできないことがたくさんあり、幼稚園では先生方やお友だちが家では親や姉たちが見守る中、大騒ぎしながらも、少しずつできることが増えてきています。小学生の姉たちは自分でやるのが当たり前になっていくこともまだ幼い息子にはできないことばかりです。末っ子で長男、さらに早生まれ……少し甘やかし過ぎじゃない?と姉たちからはクレームもきますが、パパやママが手をかけて助けることができるのも今だけだからね。なんて受け流してしまうこともあります。

お姉ちゃんがケンカをして泣いているとき、自分のお気に入りのタオルをそつと差し出して貸してあげる。そんな姿をみて、優しさをこれからも持ち続け元気にたくましく育ってほしいなと思います。

(M・T)

ポロポロと涙を流す母を見て

「泣いたら負けやで」と一言

子は親の鏡です

(F・I)

歳の差姉弟ご飯はいつも別々ごはん

自粛のおかげで揃ってごはん

みんな揃うと美味しいごはん

(A・Y)

少し前に第二子が産まりました。突然現れた小さなライバルに、お姉ちゃん戸惑っているようで「好きじゃない」と冷たい態度。けれど段々と愛おしさが生まれてきたのか、今では「大好き！」と言って二人で戯れています。その光景を眺めている時間が幸せです。

いつもどこかに不安な気持ちを抱えながら過ごす日々ですが、たくさん癒しと笑顔を与えてく

れる子ども達に、とても助けられています。

(N・T)

去年の夏、次女が生まれたばかりで長女には我慢ばかりさせていました。大好きなベランダの水遊びも満足にできず、つまらない思いをしていたと思います。

一年経った今年、私が嬉しかったのは成長した長女と次女が二人で水遊びを楽しめるようになったことです。

まだまだ一緒に楽しめる遊びは少ないけど、これからも仲の良い姉妹に成長してほしいなと思います。

(M・Y)

自粛生活の中、親子でどハマリしたニンテンドーあつまれどうぶつ森！ ゲームばかりさ

せるのもなあと思いつつ始めてみると、子どもがどンドン虫や魚の名前を覚えて詳しくなり、もっと知りたい！本物も見たい！と興味がわくように！

図書館で昆虫図鑑を借りたり魚の絵本を借りたり、夏休みにはカブトムシをとりに雑木林に行ったりしました。

新しい趣味との出会いに親子共々ワクワクでした。

ゲームだけで終わりにせず、実体験をもっとつまらせてあげたいなあと思いました。(H・I)

本当にあった怖い話

その日、長女は昼寝が足りなかったのか、夕ご飯を食べてすぐ眠たい眠たいと言っていました。

いつもはみんなと一緒に寝る準備をするのです

カメムシが……

ガラスにピツタリとくっ付いた

居たんです。

「ほら、いる！」と言うのです。段々怖くなって来て、もう一度ガラスの方を振り返ると……

が、あまりにも眠たかったのか、一人で寝に行くと言うので、一旦あとの二人を残し、私も食事を中断して寝る準備へ。そして長女に布団をかけてまた食事を再開していました。すると、しばらくすると寝室から細かい声が……。

次女と何だろうと言いながら寝室へ行くと長女が小さな声で「お母さん、誰がいる……」と言って指を指すのです。我が家の作りはちよつと独特で、寝室にガラスが付いていて、リビングが見えるようになっていたのです。指を指す方を見ても私には時計しか見えず「誰もいないで？」と言つても、「ほら、いる！」と言うのです。段々怖くなって

うおーい!! 何で寝室にいるん?! あ!! 洗濯物にくっついて来たんか!!

寝室に虫が出た時は間違ひなく仕留めるか、逃すかしないと、眠れぬ夜を過ごすことになるので、一発勝負でも緊張しましたが、ペットボトルにポトンと落とす方法で事なきを得ました。

長女、虫なのに誰かって言うのやめてー。

カメムシ、あんたのせいで今日もご飯カッチカチやぞ!!

あの時、長女が気付かずにかメムシが布団の中に忍び込んでいたらと思うと、今でもゾツとします。

(Y・N)

育児中に現れる妖怪

①妖怪布団かけ婆

子供が寝静まった頃に布団をかける。

子供が蹴飛ばしてもまた寝た頃を見計らって布団をかける妖怪のような女。

たまに暑いだろうと思ってあえてかけなかった後に子供が風邪をひいてしまったりして悲しむ姿も目撃されている。

②グズリぬりかべ

さっきまでご機嫌だったはずの子供が突然グズついて人々の動きを止めてしまう。これは近くにグズリぬりかべが居るためである。よく家事に忙しく駆け回っている親の元に現れる姿が目撃されている。

(Y・N)

子育て

第二子は成人式の三日後に帝王切開で産まれました。初めての育児で右も左も分からずにあたふたとした感じで育児をしていました。

初めての子供という事もあり、何をしてても可愛くて親バカがすごかったです。

産まれて三、四ヶ月はまともな睡眠がとれず、帝王切開での傷の痛みもがまんしながらの夜中の授乳がすごくしんどかったです。

成長するにつれ、色々な言葉や色々なおもちゃを使つて遊ぶ事を覚えて、子供の成長は早いなと思いました。

三歳になる頃に、二人目を妊娠、出産し、二人目も帝王切開だったので、不安半分楽しみ半分の出産でした。

二人目の初めての授乳の時、上の子がそれを見ていて、急に大声で泣き出して、どうしてままの

おっぱいをすってるの! 私は我慢してるのに! と怒ってるかのように泣いていたので、その場にとみんなで大爆笑でした。

二人が大きくなるにつれ、一緒に遊ぶ事が多くなる一方、喧嘩も沢山するようになりました。

二人とも、歌ったり踊ったりすることがすごく好きで、テレビとか観ていて、好きな歌が流れると二人楽しそうに仲よく大合唱が始まります。最近はその隣で聞いている時間がとても幸せだなと思います。

(M・Y)

夏休みのある日、娘が家族皆でバーベキューをしている絵を描きました。

「これがお母さん。これが〇〇ちゃん。」

と、ひとりずつ説明してくれます。夏休みなどの大型連休には親戚が寄つて、バーベキューをするのが恒例なので、その様子を描いてくれたのだと

思いましたが、今年描いてくれたその絵は、描かれた皆がマスクをしていました。パッと見た瞬間、皆マスク姿やなあ……と複雑な気持ちになったのも束の間、皆が色とりどりの可愛らしいマスクに、その上に描かれたニッコリお目目。間違いなく皆が楽しそうに一つの空間を共有している瞬間でした。コロナで様々な事が制限され、生活様式が一変し、マスクとアルコール消毒が幼稚園児にとってもごく身近なものになりました。親は子供や生活を守る為に複雑な心境の中で現状を受け入れ、何もかもが自己責任で行うという緊張感のある毎日の中で過ごしていると思います。私はその絵を見て、娘は娘なりに一つ一つの行事が今まで通りにできない事を受け止め、それでも皆と一緒に楽しくいよ、という娘の気持ちを感じました。幼稚園での過ごし方も去年と比べると、給食時にソーシャルディスタンスを測るなど、色んな変化があるはずなのに、それに対する不満は一切なく、た

だ大好きなお友達や先生と楽しい時間を過ごしたお話をしてくれます。娘からの報告話は去年と何ら変わらないのです。夏休みに描いてくれた絵を見ても余りにも皆が楽しそうなお顔をしているので、やっとその事に気づいた私ですが、子どもの素直で純粋な気持ちに改めてすごいなあ、と感心させられると共に、子供たちに不自由さを感じさせる事無く園生活を去年同様楽しませて下さっている先生方への感謝の気持ちでいっぱいになりました。ウイズコロナの時代がどうか、一刻も早く終息してくれますようにと願うばかりです。

(M・O)



『バブー』

娘九才、第四才の子育てをしています。

子を持つまで、身近に赤ちゃんや小さい子を持つ友人、知人がいませんでした。

一歳前後の子は皆、サザエさんに出てくるイクラちゃんのように、「バブー！」と言うものだと思っていました。が、一人目はもちろん、公園や児童館、幼稚園でも、そんな子は一人もおらず、マンガの世界の話で、一般にわかりやすくする為の表現だったのかー、と納得。ちよつと残念というか、かわいいのにな……、とさみしく思いました。

月日は流れ、第二子が一才をすぎた、ある日。

「バブー」

えっ?!と耳を疑い、(まさかね、空耳かな……)と思っていると、

「バブー」

大好きなおもちゃをつかんだ息子が満面の笑み

で、こちらに見せてくれます。
そして、又。

「バブー!!」

一緒に遊んでいた娘も

「なんか、サザエさんのイクラちゃんみたい!!」

と言い、

「ママも、バブー っていう赤ちゃん、初めてみたっ!!!」

と、二人で大興奮!

すぐに、パパや祖父母に報告すると、皆、聞きたいーと羨ましがられました。

一才ー一才半くらいまでの短い間でしたが、何度か憧れの「バブー」を聞きました。

日々忙しくて、小さな出来事は忘れてしまう事もありますが、イライラしたり、しんどい時も日曜日の夕方になれば時々、「バブー」と言う声が聞こえ、子供達の小さかった頃の可愛い姿を想い出し、又、頑張ろう!と思えます。

(N・K)

年長の長男に家族それぞれの干支を教えていた時の事。

『長男君はへび。次男君はさる。長女ちゃんはいぬ。』

すると長男が

『お父さんは？あつ!!ゴリラやんな?』

と自信満々に。家族みんなで大笑いでした。

(Y・F)

「松竹梅」

息子の通う幼稚園では年長・年少をそれぞれ松組、竹組、梅組と呼んでいます。

最初は洪いネーミングだなと思っていました……。甘えん坊の一人息子、梅組に通い始めて冬休みに入るまで、ほぼ毎日「ママと離れたくない」と泣きながら登園していたため、朝から説得が大

変で九時に辿り着けた日は記憶にありません。そんな私に松組のお母さんがこんなお話をしてくれました。

「梅組さんはまだ赤ちゃんぽさも残っていてかわいいですよ。今は毎日大変かもしれないけど、竹組さんになったらびっくりするほど成長しますよ!それまでがんばってくださいね」

その言葉は本当でした。竹組の進級式を境に「ぼく竹組やから!!」とドヤ顔で何でも自分でするようになり、園生活が再開すると目覚ましを早めにセットするほどの変わりよう。

正に竹のごときスピードで成長する息子を誇らしく感じるのと同時に、園の組名にとっても感心させられました。

松組になる頃には一体どんな木に育つのか今からとても楽しみです。

(A・M)

我が家は旦那と私と娘二人の四人家族です。

三月末に引越して間もなく外出自粛生活が始まりました。四歳の娘は新しい地域とても喜んで毎日外出しがりました。幼稚園は転園しませんでした。新学期すぐに休園になり、元々活発な娘は拗ねたり怒ることが多くなりました。

そんな中、口数の少ない旦那が私に不満を漏らしました。それは初めて見る旦那の姿で、とても衝撃を受けました。今までなんとなく危機感を感じていた私はこれからどうなってしまうのか、一気に怖くなりました。

しかし翌日、なんとなく遊んでいる娘たちを見ていると、四歳の娘が一歳の娘におもちゃを遊んであげていました。何でもないようないつものシーンですが、いつも我慢ばかりして、それでもたくさん怒られている娘が、この子は妹を大切にしようとしている姿に私は勇気づけられました。

今、家族はきつと大変な時期ですが全員がお互

いのことを思いやっているんだと改めて気づき、親だけでなく子供も一緒に支えあって成り立っている我が家に自信をもってこれから皆で頑張っていこうと思えた出来事でした。

(Y・I)

「お孫さんかわいいですか」と尋ねられると、「ほんとかわいいですよ。親と子の関係と違って責任ないから。余計ですよ」とよく答えている。責任ないって、子育てに大変な親にしてみればずい分な言い方で申し訳なく思うが、表情も緩みっぱなし。孫の前で目を吊り上げて……なんてこともまずない。「孫のおもちゃ代稼ぐために、まだ働きます」と年賀状にあった旧友も、十萬円の給付金の大半はお孫さんに費やしたに違いない。みんなおじいちゃんおばあちゃんになると優しくなる。

私の父も年齢とともにずい分変わった。召集は

されたが、二十年八月朝鮮半島に着いたとたんに終戦。戦わずして戻った。これを孫娘には「着いたら戦争終わって、おじいちゃんほんとに運があった」と言っていたそう。ところがさかのぼること五十年ほど前の働き盛りの時代、息子の私は「あの時は悔しくて男泣きに泣いた」と何度も聞かされた。優しく、いや、弱くなったのか。昭和二十年八月七日の新聞の見出しに「自粛しよう不急旅行。混雑は混乱の因」とあったそう。あと一週間ほどで無条件降伏、本土は空襲の連続だったはずで、ずい分のんびりしていたんだなあと思う一方、コロナ騒動下の今年と同じ文言なのには驚いた。

ただ、この騒動を戦争になぞらえる向きには反論を述べたい。戦争は、潤沢な未来を持つ若者の命を先ず奪っていくのだ。何があろうと死ぬ順番は我々からのはず。さらに「お国のために」と、学徒出陣だの集団疎開だのと親と子を離れ離れに

した。「ステイホーム」とは言ってくれなかった。そこでは親も祖父母もみんな本音をぐっとこらえることが美德だった。どこがコロナ戦争か。だから「幼稚園が休みで毎日家に居て大変」という今、ぎゅっと抱きしめてやろう。いつも手の届くところにいる子にそうしてやれることこそが、素晴らしく幸せな証なのだ。

そう、予め手洗いうがいをちゃんとして。

(M・U)

「弟は私が見てるからママご用事していいよ」
頼もしくなった娘に感動したよ
たった二分でも、ありがとう

読めなかった 書けなかった
そんな君から
もらった手紙は 宝物

(M・T)

子育てエッセイ

エッセイなんて今まで書いたことがありませんので、何を書くのか悩みましたが、今回「親になって初めて知ったこと」を考えてみました。たくさんあるような気がしますが、なんといつても「虫の世界のおもしろさ」かなと思いました。

私は今、五歳の男の子と一歳の女の子も子育て真っ最中で、毎日が戦争のようです。下の子もだいぶ個性がでてきましたが、子供によつてこんなにも興味を持つことが違うんだなあと驚くことばかりです。

下の子の興味はこれからどこへ向かっていくのかは未知数ですが、お兄ちゃんとはかく生まれ変わった時から虫が大好き！ハイハイを覚えた頃から窓際の虫を見ては指さして大興奮しているような子でした。幼稚園に入ってもその興味は高まるばかり。家には十個以上の虫かごと虫取り網のコレ

クションがベランダに並べてあり、本棚には昆虫図鑑や虫の飼ひ方絵本が並んでいます。最近ではらがなとカタカナをだいたい読めるようになってきたので、おとなしいなと思つてふと見てみると、ひとり真剣な顔をして図鑑を眺めています。

春から夏、秋にかけてはお兄ちゃんの季節。休みの日は必ずと言っていいほど毎日虫取り網と虫かごと持って昆虫採集です。モンシロチョウから始まり、アゲハチョウ、トンボ、セミ、バッタ、コオロギ……。虫をみて、季節の移り変わりを感じるようになりました。

私も虫が嫌いなほうではないので虫の名前は知っているほうだと思つていましたが、一緒に図鑑を見ているとこんなにも虫には種類があるんだと驚かされることばかり。最近「これはオニヤンマじゃないで、クロスジギンヤンマやで」と捕まえた虫を見て教えてくれました。お兄ちゃん大好きな妹は、大きい虫取り網は憧れらしく、すき

あらばそれを持って不器用に振り回しうれしそうにしています。お兄ちゃんもそんな妹に虫取りの仕方を伝授してあげていました

仕事や下の子の相手もあり、毎回は虫捕りには付き合っただけであっていいのですが、夏休みにはとことん付き合っただけの時間ができ、「ママもなかなかやるな」とお褒めの言葉を頂いたのがとてもいい思い出になりました。

(R・A)

娘を叱り

娘に叱られ

日々、共に成長

以前より

しつかり、はつきり話す我が子見て

笑みこぼれる

(S・K)

長い自粛生活 孫と二人 逆立ちの練習
アラ失礼 私の方が先に出来ちゃった
人生初の逆立ち もうすぐ私六十歳

(N・O)

コロナ禍で各種行事が中止縮小される中、我が家の年長の長女が楽しみにしていた「お泊り保育」も中止になってしまいました。代替として、「お楽しみday」を企画していただきました。お昼に集合して、川遊びやハンカチの染め物を体験して、夕食を幼稚園でとって、星を見たり、花火をして帰宅します。楽しそうなのですが、例年のキャンプファイヤーをして、マイムマイムをして、みんなで一緒に寝て……というのと比べるとパワーダウンは否めません。兄がいて「お泊り保育」を知っているだけに、がっかりしないか少し心配しながら送り出しました。

心配は、帰宅した娘の笑顔で払拭されました。川遊びでカエルや小魚を見つけたこと、きれいに染まったハンカチのこと、花火は絵をかくてどんなに楽しかったか話してくれました。

子供には「例年」も「慣例」もありません。今あることがすべてです。大人は、今してやれる中で最大限のことをしてやればよいのだということを感じました。また一つ、子供に教えてもらいました。

(K)

怒りすぎてしまった日のよる、こどもたちの寝顔を見て癒され、明日は怒りすぎないようにしよう！と思うのに、翌日はまた同じことのくり返し。いつかこの毎日をなつかしく思う日が来るのが夢見て今日も怒ってます。

(K・A)

五歳の息子と二歳になったばかりの娘がいま

す。
まだまだ私に甘えたりお兄ちゃんと、イヤイヤ期に突入した妹。

お兄ちゃんは、あそんでいるおもちゃを急に取られる。

真剣に描いた絵を、無惨にも破られる等、妹にはイライラさせられています。

下の子が産まれてから、なかなか息子と二人の時間を取れないな……と思い、パパに下の子を任せて「大好きなポケモンセンターに行ったり、お茶したり。ただそれだけのお出かけでした。家を出てから、終始手をつないでくれて、「ママの好きな所にも行こう。」や「○○ちゃん(妹)におやつ買って帰ろう。」と、息子からの優しい言葉も聞けました。

もっと上の子と二人で向き合う時間を作れたらな。と思っています。

(M・E)

妹の願い事

幼稚園の個人面談で、次女の担任の先生が教えてくださった話。

「Cちゃん、七夕飾りの短冊に何て書いてはったか、ご存じですか？」

『○○(姉)が はやく げんきになりますように』
って、書いてはったんですよ。」

「え、そうだったんですか!？」

我が家には小二の長女がいて、今年に入ってから突然学校に行き渋りだし、長期休校明けからは不登校。そのうちに習い事もすべて止めて、ほとんど家で過ごしている。

たまに次女が「今日も○○は学校休みのなの？ ずるー!!」とか言ったりして、

「○○！学校何で行かないの？」と聞くので、傍で聞いている私がドキドキハラハラすることもある。

「あ、いい事思いついた!」と言つては、よく分

からない実験をして、部屋中を散らかす次女。

出掛けていると、目に入ったものにまっしぐら。

結果、しょっちゅう迷子になる次女。

気に入らないことがあったら、理不尽に怒りをまき散らして、この世の終わりとばかり大泣き。

そして、そのうち何事もなかったかのようにケロツとする次女。

そんな「自由人」で「天真爛漫」で「我が道を行く」次女だけれど、長女の変化をよく感じ取っていて、心配して気にかけていたようだ。

ある時、次女が「ママー、○○は学校苦手なんだってー」と教えてくれた。

それから「Cはねー、幼稚園楽しいから毎日行くんだよ!」と言った。

我が家の姉妹。

姉、学校が苦手だから、行かない。

妹、幼稚園が楽しいから、毎日行く。

みんな違って、みんないい。

(K・S)

どんなおもちゃより

どんな遊びより

一番おもしろいのは やつぱり お父さん

(A・M)

言うこと聞かなくて

「もう、あんたなんか知らん」

と言われても 大好きなお母さん。

(A・M)



母、レベルアップ

私は大の虫嫌いである。嫌いというか、怖い。もちろん人間の私の方が数百倍体大きいのが、それでも怖いのは怖いのだ。

子供の頃はだんごむしを転がして遊んだり蝉を採集して観察したりしていたが、年を取るにつれ、それらはとにかく苦手な存在となった。特に多くの人が嫌いであろう、名前も書きづらいあのGさんとか、意外と早いクモとか。正直、良い年して自分でなかなか駆除出来ないのだ。ただ、蚊は大丈夫。

子供を産む前はただ漠然と、母になったら強くなつて虫ごときはなんとか倒せるようになるだろうと思っていた。

そしてある日、時は来た。

部屋で横になろうと思いい体を仰向けにした瞬間、白い壁に何か動いていた。黒くて小さなあれは……

「クモ……」

なんで今なの〜という心の叫びが漏れたのか、遊んでいた子供が「どうしたの?」と聞いてきた。とりあえずクモをなんとかして子供が気にせず遊べるようにしてあげよう!

クモは益虫だし殺さない方がいいと聞いていた。ちようど窓際の方に向かっていたので、紙などで窓から出してあげる絵を頭に書いた。しかし一回目、クモはなかなか私が差し伸べる紙の上に乗ってくれず、窓の下の壁に降りようとした。あかん、部屋の中で見失ったらもつと嫌だと思い、クモ用のスプレーを出してきてシュッと、噴射したがあたらず。クモも何か異変を感じ、素早い動きで逃げ出した。二回目の紙乗せ作戦を開始。も、失敗。ここまで多分三十分くらい対峙した。そしてまた下の方に降りてくる瞬間、そこはあかん! と思い、今度はクモに向かって殺虫剤を噴射したら、そのまま下に落ちた。

倒したのは良いけど、あれをどうやって処理するのか。後処理のことでもまた二十分くらい悩んだ。本当情けないけど、窓の向こうの通行人に助けを求めたい位怖かった。しかし、後ろからの子供の声。「やっつけたの?すごい!お母さんがんばったね!」

ごめん、まだあそこにいるんだけどね、と思いつながらも倒れた虫をそのまま置いておく訳にはいかず、心を決めた。相手はもう動かない黒くて小さい紙みたいな物だと自分に言い聞かせた。紙だ。ちよつと丸まった紙をティッシュで拾うんだ……。大丈夫

そしてようやく、対峙から約一時間、無事クモをやっつける事が出来た。子供の応援とともにした、人生初の(苦手な)虫退治の日だった。

母になってもすぐ虫には強くはなれないけど、だんだんレベルアップは出来るかな。まずは虫が出ない家を目指そう。

(K・J)

イヤイヤ期真っ盛りのころ、外出中に服を汚してしまい、着替えがしたいと脱いだものの、今度は絶対に服を着ないといはいりおむつ一丁で自転車にのせて京都の街中をかけぬけ家に帰ったことは今となってはいい思い出です。

(K・S)

子供たちの成長と共に

学期末に持ち帰った学用品を休暇中に綺麗にして、美しく生まれ変わったものをまた新学期に持つていくというのは、とても気持ちの良いことです。それだけではなく、日々幼稚園や小学校で使っているのを見ると子供たちの成長を感じ取ることが出来ます。

上靴がきつくなれば身体の成長がわかるし、雑巾が汚れていれば毎日頑張って掃除をしているということ。ペンやクレヨンが減っていればたくさ

ん絵を描いたのかな、と嬉しくなります。

しかし、嬉しい反面、忙しい毎日の中で、毎学期の手入れが三人分ともなるとさすがに大変だなと感じていた頃、上の子は自分のことが自分でできるようになり、またそれを見て下の子たちも自分ですと言うようになり、今ではみんなで新聞紙を広げて綺麗にするのが長期休暇の恒例となりました。みんなでワイワイおしゃべりをしながら、幼稚園や小学校の様子を聞く良い機会になったのはもちろん、新学期にしてみたいことや興味の矛盾を知ることでも出来ます。何でもわたしが一人で黙々とやった方が早くて綺麗になりますが、一緒にすることにより子供たちの成長を知り、たくさん

の気付きがあります。夫婦はともかく、親子なら何でも分かり合えると思ってしまうがちですが、毎日一緒に暮らしている自分とは違う子供たちそれぞれの個性を伸ばし、時には正して成長を見守るという作業はと



ても骨の折れることで悩みも多く、自分の成長も求められます。でも、一人で抱える必要は全くないと思います。家族や友達と何気ない話をするだけでも良いし、先生方とはたくさん情報の共有して色んな角度から見ること大切です。専門家に相談する機会があれば勉強にもなるしとても有効です。これからも大人たちの力を合わせて子供たちの成長を見守っていきたいと思います。

(A・K)



山に川

密避け戸外で

昔あそび!?

公園の遊具はちよつと控えて、自然の中であそぶ機会が増え、昔の子どもたちもこんな風にあそんでいたのかなあとしみじみ。

昼プール

夜は花火で

夏先取り!

ステイホームで家であそびつくし(笑)、五月からすでに家の前でビニールプールを出したり花火をしたり、自粛中で春休みが延長というより早めに夏休みがやってきたという気分でした。

三密ダメ!

家ではべったり

子と私

自粛中、母子で過ごす時間が増えて、息子はかなりの甘えんぼになり、私の後ろを常についてまわっていました(笑)

夕食を

ほおばる向こう

梅雨の虹

(T・O)

(J・N)

三歳の息子とスーパーマーケットへ買い物へ行った時の息子の一言から川柳を思い浮かべました。

レジ見あげ

透明フィルム

コロナだね

(M・M)

折り紙の

ケーキとコーヒー

ティータイム

おかみです

ごっこ遊びで

温泉旅行

うちだけの

縁日カラオケ

いちご狩り

夏休み

室内避けて

シミ増えて

(A・H)

今だけと

幼稚園まで

手をつなぐ

(N・S)

友だちに

会える嬉しさ

自粛明け

桜舞う

マスク姿の

進級式

仲間との

会話恋しい 自粛中

ZOOM使って 井戸端会議

アルコール

かけずりまわって 探した日

ハンドソープも

軒並み 売り切れ

巣ごもりで

料理上達 嬉しくも

体は哀しき コロナ太り

三密を 避けて遠くの 公園へ

コロナ期間の

親子の思い出

(A・U)

巣ごもりで

息子の主婦力

みえてくる

巣ごもりだ！

ランチ作りに

武者震い

井で

こども喜ぶ

我たる

また麺かあ

ごめんごめん

ごめんやで

また喧嘩

即座に母は

鬼となる

(N・S)

おやつだよ♪

その声だけは

逃がさない！

ママ見ててー!!

日々の成長 宝物

(F・O)

テレワーク

「パパは 明日も

お家いる？」

(S・H)

ひますぎて

早寝 早起き

背が伸びた

(A・K)

さあ行こう！

どこでもドアで

庭キャンプ

コロナ禍、お庭にテントや椅子を出しお弁当を食べたり、すべり台にお砂場、自転車、プールと沢山あそびました！

笑い声でいっぱいの期間でした

(E・H)

虫たちよ 我が家の庭は やめておけ

【ハンターに注意】

『ぼくじゃない』 いやまだ何も 言うてない

【たぶん犯人】

怒り出す 母に抱きつき 『だいじょうぶ？』

【戦意喪失】

(S・H)

『なんいもない』 後ろ手のまま 後ずさり

【絶対何かある】

自分では 見えぬ口元 『たべてへん』

【チョコついているよ】

ゆくさきは……

いっしょうぶんの

たからがいけ

この短期間で、一生分の宝ヶ池を散歩しました。

(K・I)

あらためて

こどものえがお

まもりたい

子の寝顔

見では毎日

反省し

がまんした

この期間をね

むだにせず

自粛中

パパの存在

感謝する

(Y・H)

ようちえん

十年間も

ありがとう

(K・I)

お手伝い

お気持ちだけで

十分です

底なしの

体力あるの

あなただけ

頑張るよ

キミの疲れた

聞くまでは

朝ごはん

食べたと思えば

昼ごはん

遊ぶけど

今だけ少し

休ませて

疲れたよ

母さんキミに

疲れたよ

お母さん

用もないのに

呼ばないで

(T・S)

熱帯夜

川の字 朝には

……何の字だ？

(K・O)

ねたくない

言ったそばから

すーやすや

なつやすみ

毎日三食

なぜ食べる

抱きかかえ

ふにふに減った

さみしさよ

(K・I)

密を避け

自然あそびで

真っ黒に

新型コロナウイルスで密をさけるため、自然あそびをたくさんした今年の夏休み。川あそびや虫とり、おうちプールなどで親子で真っ黒になりました。

(M・T)

だっこして

あとどれくらい

できるかな

(Y・M)

親ならば

一度は思う

天才か？

キムチにホルモン 明太子
誰に似たのか食の嗜好
いつか行こうね 親子飲み

(Y・N)

言葉増え

気になる自分の

言葉づかい

「パパ大好き」

魔法の言葉で

あやつられ

(M・T)

一日中

献立ばかり
考える

お手伝い

時間かかるが
母うれし

テレワーク

上はYシャツ
下ジャージ

(M・T)

誰よりも

あやすの上手
お姉ちゃん

しりとりが

「んんち」で続き
終わらない

(M・T)

自粛中

ハイハイ末っ子
皆で追う

(N・K)

叱るとき

脅すのダメだと 知ってても
使ってしまう 鬼から電話

(M・M)

コロナ禍で

絆深める
父と子よ

(T・T)

京の町

路地を歩いて
あみだくじ

三十秒

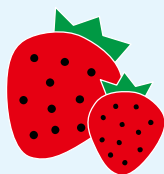
命を守る
おまじない

(H・N)

なつやすみ

きょうだいげんかは
休みなし

(R・N)



自肅中

子の見るアニメで
曜日知る

自肅中

落ちてくる体力
上がる家事力

(R・S)

子育ては

すべてが発見
子に学ぶ

(T・H)

ㄱ
なんかある

むしのおもちゃに

ははドキリ



(K・K)

みずあびて

はしゃぐわがこに
めをほそめ

(Y・E)



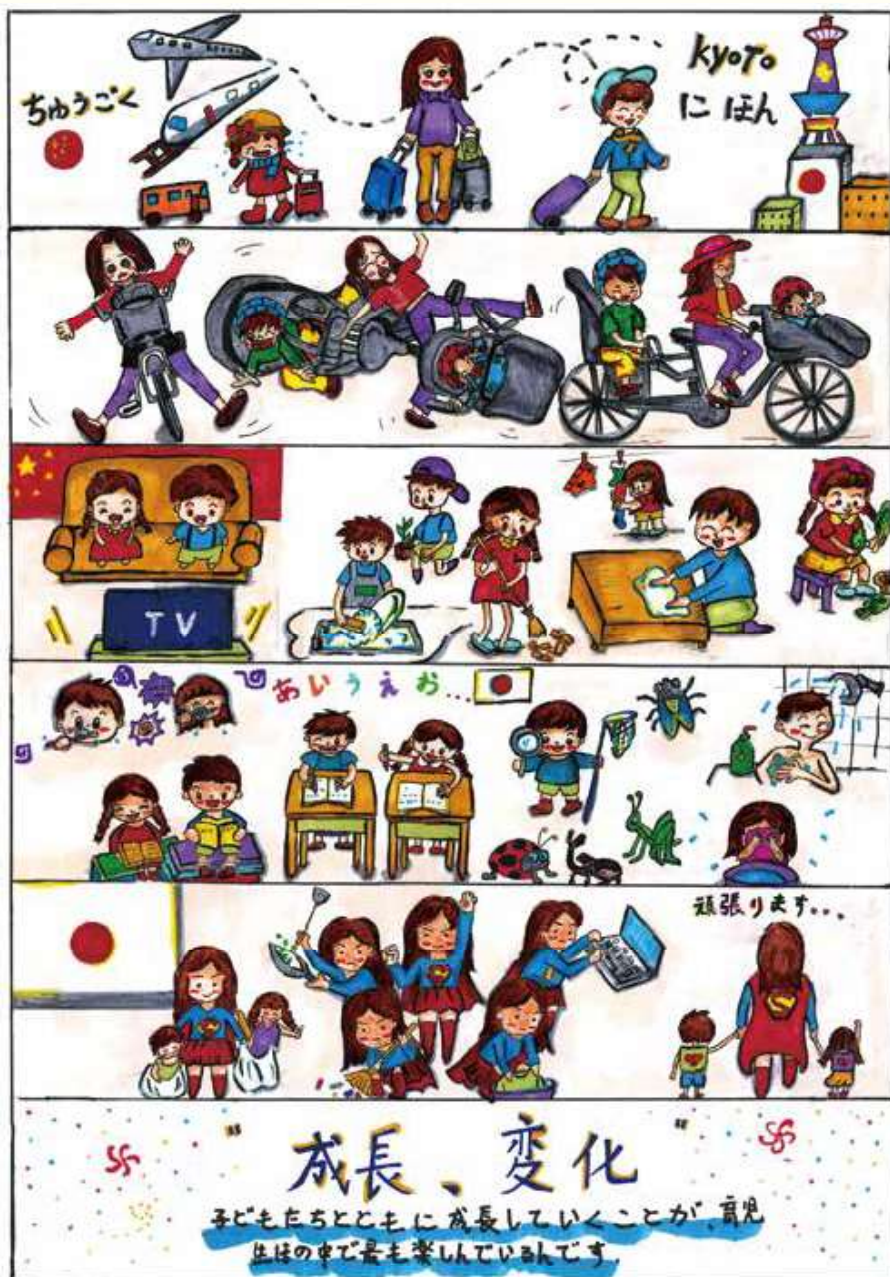


(T・U)



(H・K) (R・K)





(R・S)

子育ての中で見つけたうれしいこと

発行日 令和二年十二月二十二日

発行 (公社)京都市私立幼稚園協会

〒六〇四一〇八八三

京都市中京区間之町通竹屋町下る楠町六〇一ー一
京都市子育て支援総合センター

こどもみらい館内

TEL(〇七五)二五七ー〇三七五
FAX(〇七五)二五三ー四一八八

印刷所 (有)章美プリント

TEL(〇七五)六九一ー一六二四
FAX(〇七五)六六一ー〇二九二